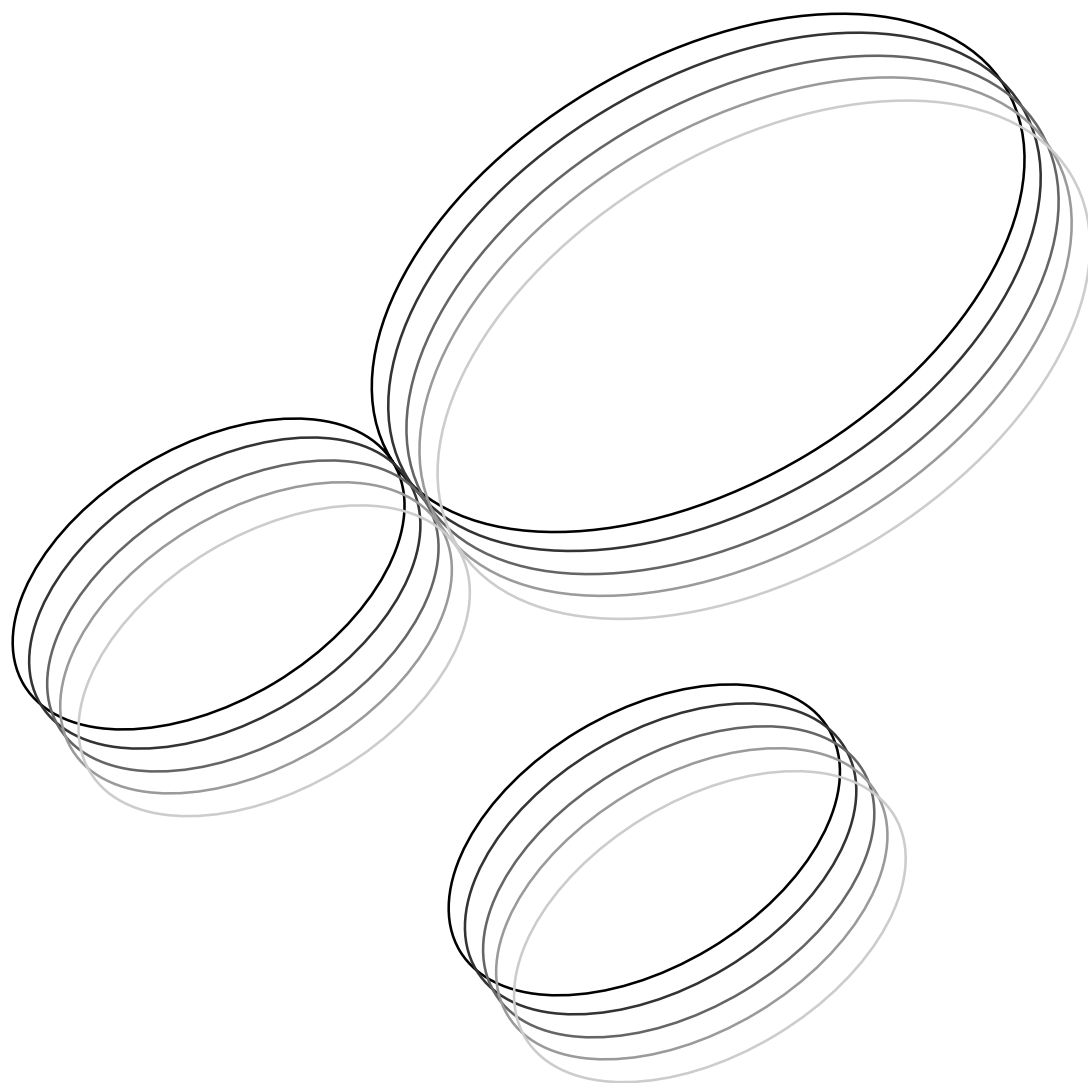


災害時要援護者の避難支援・ 避難生活支援セミナー

被災現場と障害当事者からの提案

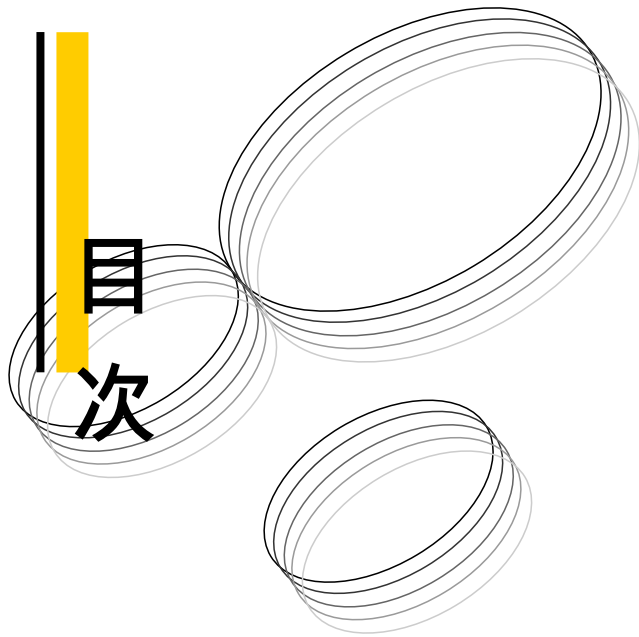


日 時 平成 19 年 9 月 21 日 (金) 14 : 00 ~ 16 : 00

会 場 ウィル愛知 1F セミナールーム (1 , 2)

主 催 社会福祉法人 A J U 自立の家

後 援 愛知県、名古屋市、愛知県社会福祉協議会、名古屋市社会福祉協議会



開催要項	2
プログラム	3
資料	4
1 . 講演	4
2 . 災害現場からの報告	5
3 . 災害支援ボランティアからの報告	6
4 . 災害時要援護者の避難生活に必要な防災備品の提案...	7
参加者内訳	8

開催要項

趣 旨

3月の石川県能登半島地震、7月の新潟県中越沖地震と大災害が頻発、東海地方も近い将来高確率で予測される東海地震・東南海地震・南海地震の連動により大災害の危機が迫りつつあります。

今回、最新の地震関係の情報を学びつつ、災害時要援護者対策が被災現場で実際にどのように行われたか、障害当事者からの提言を及び最近の災害地から報告を受けながら、地域特性や当事者からの提言に合わせた実用性の高い整備計画を進めていく施策に結びつけることを目的に開催します。

主 催

社会福祉法人 A J U自立の家

後 援

愛知県、名古屋市、愛知県社会福祉協議会、名古屋市社会福祉協議会

日 時

平成19年9月21日(金) 14:00~16:00

会 場

ウィルあいち 1Fセミナールーム(1,2)

〒461-0016 名古屋市東区上豎杉町1番地 TEL 052-962-2511

対象者

自治体消防・防災関係者、保健福祉関係者、社協関係者、
障害当事者団体、災害ボランティア、福祉サービス事業者

参加意向があれば誰でも参加可能とする

展 示

避難所間仕切セット、ポータブルトイレ、文字情報表示装置等の事例紹介、
GIS(地理情報システム)を使った避難支援システム

主催者挨拶・趣旨説明 14 : 00 ~ 14 : 05

わだちコンピュータハウス 所長 水谷 真

講 演 14 : 05 ~ 14 : 45

『緊急地震速報をどう活用するか』

愛知工業大学工学部都市環境学科教授

地域防災研究センター センター長 正木 和明 先生

被災現場からの報告 14 : 45 ~ 15 : 05

『その時わが町では何が起きたか』

石川県輪島市社会福祉協議会 事務局長 七尾 幸子 氏

災害支援ボランティアからの報告 15 : 05 ~ 15 : 25

『災害時の避難所における要援護者支援の課題について』

特定非営利法人

レスキューストックヤード 事務局長 浦野 愛 氏

災害時要援護者の避難生活に必要な防災備品の提案 15 : 25 ~ 15 : 40

わだちコンピュータハウス 防災企画グループ 菅沼 良平

質疑応答 15 : 40 ~ 15 : 55

閉会挨拶 15 : 55 ~ 16 : 00

わだちコンピュータハウス 所長 水谷 真

講演（別冊資料1） 14:05～14:45

『緊急地震速報をどう活用するか』

愛知工業大学工学部都市環境学教授

地域防災研究センター センター長 正木 和明 先生

『その時わが町では何が起きたか』

石川県輪島市社会福祉協議会 事務局長 七尾 幸子 氏

1．まさか能登に地震が起きるなんて

- ・能登には地震は起きないと思われていたから動揺
新潟中越地震を経験しても、日本海側より太平洋側におきるイメージが強かった
- ・合併して間もない輪島市（旧輪島市、旧門前町）
平成18年2月1日合併して1年後の震災
輪島市の被害の状況 資料2 - 1 資料2 - 2、2 - 3

2．防災訓練がそのまま現実に起きた

- ・同じ場所 門前町道下震度6強の想定で5ヶ月前に実施
- ・訓練(想定)と現実のあまりの違いに“大変なことが起こった”
活かされた訓練 町内単位での取り組みと日頃のつきあい
民生委員のあたまに描きこまれた福祉マップが役に立った
- ・揺れる恐怖と壊れる悲しみ “かたちあるものところ”
大切なものが「瓦礫(がれき)、災害ゴミ」と呼ばれる痛み

3．たくさんの応援に支えられて

- ・災害ボランティアセンターを立ち上げなければ
- ・まず、被害の大きい門前町に災害対策ボランティア現地対策本部
2つの災害ボランティアセンターの運営 資料2 - 4
輪島市災害ボランティアセンター門前
輪島市災害ボランティアセンター輪島
2ヶ月間に約16,000人のボランティアが能登へ
そのうち約12,000人が輪島市に
- ・ボランティアに頼ってもいいのかな
なかなか馴染まない土地柄
できるだけ自分でしようとしても限界がある
- ・ボランティアに頼ってばかりいいのかな
生活ゴミをきっかけに災害ボラセンの閉所のタイミングを図る

4．復興支援ボランティアセンターへつなぐ

- ・ボランティアさんにエネルギーをもらって元気になる 資料2 - 5
- ・頼ってばかりいられないもんね 地元の力を少しずつ取り戻す
- ・普段にもどりたい
住み慣れた元の場所で元の生活に戻りたいと願う市民
資料2 - 6 新聞記事(北国新聞7月31日)
- ・災害ボランティアの会の結成

『災害時の避難所における要援護者支援の課題について』

特定非営利法人
レスキューストックヤード 事務局長 浦野 愛 氏

避難所における要援護者支援の問題点

- ・ 居住スペース
- ・ トイレ
- ・ 衛生管理
- ・ 食事
- ・ 暑さ対策
- ・ 気分転換、身体機能の低下予防
- ・ マンパワーの確保
- ・ 個別ニーズへの把握と対応

たった一人も救援・復興から取り残されない支援とは

- ・ 「地元主体」「被災者本位」「ゆっくり丁寧に」
- ・ 地元ボランティアによるオリジナルボランティアメニューの実施
- ・ 介護保険を適用した避難所への介護スタッフの派遣
- ・ 避難所チームの活動：環境整備班・高齢者支援班・子ども支援班
- ・ 被災者の「つぶやき＝ニーズ」を拾う 足湯・移動茶の間
- ・ 被災者の「声」をもとにした活動を展開 必要なのは創意工夫・ネットワーク力
- ・ 外部への情報発信の大切さ

要援護者支援の課題

- ・ 「助けて」を自ら声を上げられない人の声をどう掘り起こしていくか
- ・ 大量・一斉ではなく被災者のペースや一人ひとりに合わせた支援がどこまでできるか
- ・ 専門ボランティアと一般ボランティアが対応すべきニーズの見極め
- ・ 地元の社会資源（NPO・学校・地域自治会・福祉施設など）との連携
- ・ 「地の人」と「よそ者」の役割分担
- ・ 「長く寄り添う」ことの大切さ

特定非営利活動法人レスキューストックヤード

〒464-0032 名古屋市千種区猫洞通 5-21-2 ライフピア本山 3 階

TEL: 052-783-7727 FAX: 052-783-7724

E-mail info@rsy-nagoya.com HP-URL <http://www.rsy-nagoya.com/>

1 . 避難所間仕切セット

避難所間仕切りセットのご提案 (2008 年版) 参照

<http://www.aju-cil.com/wadachi/majikiri.php>

2 . ポータブルトイレ「ユニットイレ・安心」



3 . GIベッド



4 . 文字情報表示装置「パパラビジョン」(資料3参照)

展示協力 FM愛知

試験放送による実演

<http://www.tfm.co.jp/papalavision/>



5 . 嘔吐物緊急凝固剤「ゲロポン」



6 . GIS (地理情報システム) を使った避難支援システム (別紙資料 参照)

7 . シルウォッチ



本日の参加者

参加者内訳

各市町議会	9名
行政	18名
社会福祉協議会	11名
福祉施設	2名
障害当事者団体	8名
災害ボラ	16名
大学・学生	3名
都市センター	2名
合 計	69名

名古屋市	24名
愛知県	30名
岐阜県	7名
三重県	8名
合 計	69名

MEMO